



“声”

校長 小松 広宣

暑かった日々はいつの間にか過ぎ去り、晩秋を迎えました。近年は、長い夏が終わったと思うと、秋をゆっくり味わう間もなく、冬の足音が聞こえてくるようです。季節の移ろいを感じる間も短くなりましたが、耳を澄ませば、自然は今もさまざまな“声”を届けてくれています。

「虫の“声”」は雑音？ 音色？

虫の鳴き声を聞いて、皆さんは何を感じるでしょうか。ある識者がアメリカの大学で日本文学の講義をした際のエピソードを紹介します。日本のよさとして「虫が鳴くこと」を説明したところ、学生はなかなか理解を示さなかったそうです。虫の“声”に趣（おもむき）を感じるのは日本人が多く、欧米では雑音に聞こえる人が多くいる傾向があるようです。“声”の感じ方は人や文化でそれぞれ異なるということなのでしょう。

教師は子どもの“声”に耳を傾け導きます

※イラストは、実際の様子をもとにAI生成

私たちの周りにも、子どもたちのさまざまな“声”があります。うれしい声、悔しい声、考えや思いを伝える声。時には言葉にならない“内なる声”もあります。

教師は子どもたちの“声”に心を澄ませて耳を傾けます。そして子どもの“声”に応え、導きます。本校が大切にしている「自ら考え表現する力」を育む問題解決的な学習でも、まず子どもの発想や疑問の“声”を受け止め、学習のめあてをつくり出します。次に子ども一人一人が考え、友だちと“声”を伝え合い、新たな考えに気づかせていきます。そして教師は、放課後に子どもたちがつづったノートなどを読み、子どもの内なる“声”に耳を傾け、次の指導につなげていきます。



放課後の教師
子どもの内なる“声”に耳を傾け

保護者や地域の皆様の“声”にも耳を傾けます

子どもの“声”に耳を傾けるだけではありません。保護者の皆様や地域の皆様の“声”も、子どもたちの健やかな成長を支える大切な手がかりです。だから皆様の“声”にも耳を傾けます。本校ではこれを「学校相談」と呼んでいます。学校と家庭、地域がそれぞれの立場で“声”を伝え合い、それをもとに力を合わせることで、子どもたちの可能性はさらに広がっていきます。



立ち話も「学校相談」
保護者の“声”に耳を傾け

第三松江小学校は、今後も様々な“声”に耳を傾け、子どもを「次代の担い手」として育てていきます

学 校 相 談 03-3653-5348

保護者の皆様が感じている子育ての悩み・家庭と学校の連携などについて相談できます。